

リオネット
補聴器

リオネット・フィッティングポリシー

日本の補聴器メーカーとして 「聞こえ」を通じて笑顔をお届け

約70年の歴史を有する国産補聴器メーカー、リオネット。補聴器をはじめ医療用検査機器などを手がけ、高い技術力を有する企業である。近年は研究開発のみならず、ユーザーが補聴器を使い続けるためのサポートにも心を砕く。

聞こえに悩む人に、「補聴器を使い続ける気持ち」を持つてもらうために行動しよう——。リオネットはこの姿勢を「リオネット・フィッティングポリシー」として明文化し、2年前から社を挙げて取り組んでいる。

「私たちが提供したいのは、『補聴器』というモノではなく、それを通して得られる会話や喜びです。そのためには、売って終わりの姿勢ではダメ。補聴器を前向きに使っていただけるよう働きかけていくこともまた、メーカーの責務だと思っています」。リオネットの太田昌孝さんは、こう力を込める。

「どれだけ高機能な補聴器も、お客様に使っていただかなければ、その真価は発揮できません。お客様が使いたいと思う。その気持ち

を大切にし、支えたい。それが私たちの原点となつていきます」

一般的にフィッティングとは、補聴器の出力を技術者が微調整する作業を指すが、リオネットでは最適な補聴器選びや、音に馴染むためのトレーニングなど、補聴器に関わるすべての支援を補聴器を心地良く使うための「フィッティング」と捉えて、全国のリオネット販売店と協力してサービスの向上を目指している。

「例えば補聴器を使い始める段階で、お客様とにかく補聴器を使い続けてください、と頼んでもやる気が出ないですよ。でも、『1週間、毎日3時間は使ってみましょう』と明確で短期的な目標を決めると、やってみようかなと思えるし、達成感も生まれる。お客様の生活や性格にあわせて、有効な計画を立てるのが大事です」

フィッティングポリシーという理念を、現場での具体的な行動に

お客様が使い続けたいと思う。
その気持ちを大切にし、支えたい。



リオネット株式会社
医療機器事業部
事業企画部 企画課課長
太田昌孝さん

まで落とし込んで、実行していく。ここには、国産メーカーとしての経験と歴史がものを言う。もちろん製品開発においても、現場の声が生きている。リオネット補聴器を手に取り、優れた補聴器テクノロジーと同時に、毎日の使いやすさにも細やかに気配りしていることが分かるだろう。

「初めて補聴器を購入するとき、多くの人はきつと『これで聞こえが良くなるはず』と期待を込めて、第一歩を踏み出しているはず。その思いに応えるために、お客様の聞こえに関わり続けていきます」